

平成30年度 鳴門市学校評価書

鳴門市

鳴門市第一中学校

I 経営の重点に関すること

学校教育目標

A;大変よい, Bまあまあよい, C少し課題を感じる, D;課題である

項目	内容	中間評価	年度末評価	コメント
重点目標(重点的に求める価値目標)	1 知・徳・体の調和のとれた生徒の育成 ①分かりやすい授業 ②心に響く道徳・人権教育 ③体力向上・安全教育 2 生徒の自己有用感を育てる 3 全教職員で取り組む生徒指導		B	
具体的な取組 (組織として価値観を揃えて取り組むこと)	すべての教員が生徒の良い面や良い言動を積極的に見つけ、情報を共有(日常的な情報交換)し、ボイスシャワー(賞賛・承認)を継続して行う。		B	
	教職員が情報を共有し、迅速な対応を心がけ、全教職員で取り組む生徒指導を実践する。 誰もが同僚教師の授業を参観できる公開授業週間(=学び合いウィーク)を実施する。参観した教員は授業の良かった点や参考になった声かけ、生徒の変容(発見)など良情報を用紙に記入し授業を行った教師に渡し、情報交換を行う。		A	組織的に早期発見早期対応の取組を87.5%の教員がしていると回答。
評価指標 (具体的な求める子どもの姿・行動目標)	自己有用感を感じる生徒を75%以上にする。		B	
	授業中人の話がしっかり聴ける生徒85%以上にする。		A	生徒の85.4%が集中して聴けていると回答。授業からも落ち着いた様子が見られる。
	授業をわかりやすく指導してくれたと感じる生徒を85%以上にする。		A	生徒の87.8%が集中して聴けていると回答。授業からも落ち着いた様子が見られる。

スローガン	自己有用感を育てる教育の実践～互いのよさを認め合い、夢や目標に挑戦する生徒の育成～
-------	---

学校の自己評価・改善方針	☆プラス評価: 教職員が重点目標を共通理解し、一丸となって教育活動に取り組めた。・バトンタッチ作戦等の継続により、問題行動が減少し、落ち着いて授業を受けることができた。 ★マイナス評価: 学び合いウィーク(教職員相互の授業参観)の実施率が低下した。・地域の教育力を活用した教育活動が少ない。・知識や技能を活用する力が育っていない。 ☆改善方針: 業務改善により教職員の時間の確保を進めることで授業改善や指導力の向上を図る。
--------------	---

学校関係者評価	☆プラスの評価: ボランティア部の活動は地域への貢献度も高く今後も続けてほしい。・バトンタッチ作戦は効果が出ているので今後も続けてほしい。 ★マイナスの評価: 不登校生徒への対応をさらに充実していくこと。・様々な家庭環境を理解し子どもの現状を見据えた対応をしていかなければならない。
---------	--

II 学校アセスメント

A;大変よい(90～100%), Bまあまあよい(89～80%), C少し課題を感じる(79～70%), D;課題である(69～0%)

大項目	中項目	学校の取り組み	中間評価	年度末評価	子ども調査	中間評価	年度末評価	保護者調査	年度末評価	A, Dについてはコメントを付す	
学習指導の充実	学習意欲の向上	魅力的な授業展開の工夫		B	1 先生はいつも分かりやすく教えてくれる		A	1 子どもは、学校の勉強に意欲的に取り組んでいる	B	生徒理解に努め情報交換を密にしている。	
	基礎基本の定着	学力テスト・ステップアップテスト		B	2 漢字や計算の力がついてきている		C	2 子どもの学力状況はよく分かっている	A	保護者の91.4%がよく分かっていると回答。	
		単元末テスト・中間テストなど		B	3 成績に満足している		C	3 学校は、学力向上に向けて熱心に取り組んでいる	B		
		思考・判断力の向上	学力テスト・ステップアップテスト		B						
	単元末テスト・中間テストなど			B							
	体力の向上	体力テストの結果など		B							
		体力づくりにつながる活動の実践		A	4 進んで運動し、体力づくりをしている		B	4 学校は、子どもの体力づくりに取り組み、効果を上げている	B	体育の授与業において目標設定を明らかにし、生徒のやる気を喚起した。	
	学習規律の定着	学習の仕方のルール作り		A	5 授業中に人の話を集中して聞いている		A	5 学校は、子どもの学習規律の定着に熱心に取り組んでいる	B	4月当初に学年集会において授業ルールを確認し、足並み揃えた指導を続けられた。	
		授業観察		B	6 宿題をきちんとしている		A	6 子どもは家庭学習(宿題)を、きちんとしている	B	生徒は日々の学習課題は提出する意識は高い。	
	課題解決的な学びの充実	「めあて」や「まとめ」を表示した授業実践		A						常に全教員が本時の目的を示し、生徒のやる気を喚起している。	
	協働的な学びの充実	グループ学習の実践		B	7 グループで調べたり、課題を解決する学習が好きである		B				
	習熟に応じた指導の充実	習熟度学習の実践									
	ICT等を活用した指導の充実	ICT活用の授業の実践		B	8 電子教科書などを使った授業は好きである		A			様々な教科で電子黒板を活用した授業を展開している。	
	特色ある指導	新聞の要約感想を書き、今後の生活に生かす。		B							

	大項目	中項目	学校の取り組み	中間 評価	年度末 評価	子ども調査	中間 評価	年度末 評価	保護者調査	年度末 評価	A, Dについてはコメントを付す
46	学校経営 の改善	校務分掌の組織化	校務の見直しや組織の改廃		B						
47		教員の参画意識を高める	学校経営・運営ビジョンの共通理解		B						
48		学校事務の効率化、効果的な会議	情報の分類・整理の推進		B						
49			その他自校独自の取組(超過勤務縮減への取組)		A						部活運営方針の策定や呼びかけにより超過勤務が改善された。
50	教員研修 の充実	共通テーマにそった研修	校内研修の充実		A						道徳教育・人権教育における校内研修が充実した。
51		研修会等への参加と報告	受講研修内容の伝達の推進		B						
52			その他自校独自の取組()								
53											
54											
55											
56											
57											
58			その他自校独自の取組()								

学校の自己評価改善方針 今年度は「部活動運営方針」を策定し、生徒のけがの未然防止や心身の成長、学習時間の確保を目的とした休養日を設けていたことにより、教師も確実に休養できるようになった。いじめや不登校問題の解決が複雑・困難化しているとともにスマホや家庭学習習慣の格差により学習意欲や学力の差が大きくなってきている。これらの課題を解決するには教職員の指導力を向上させる必要があり、その為の研修も計画的に実施しなければならない。とくに特別の教科道徳の実施に向けて、個々の教師の道徳教育に関する知識・技能をさらに高める工夫と努力が必要となってくる。

学校関係者評価 これまでの取組を引き続き受け継ぎ、チームとして一丸となって取り組み活力ある教職員集団になっている。今の学校の状況は校舎の建て替えによる環境整備だけでなく、ここ数年間バトンタッチ作戦をはじめ、継続して取り組んできたことが良い学習環境づくりにつながっていると考える。今後も続けてほしい。携帯の持ち込みについて容認する方針が出されていることについて、非常に危機感を持っている。導入するのであれば成功例を参考に、鳴門一中としての共通ルールを作り子どもも保護者も同一歩調で進めないとトラブルの増加につながるのではないかと。